



北陸繊維産地との連携

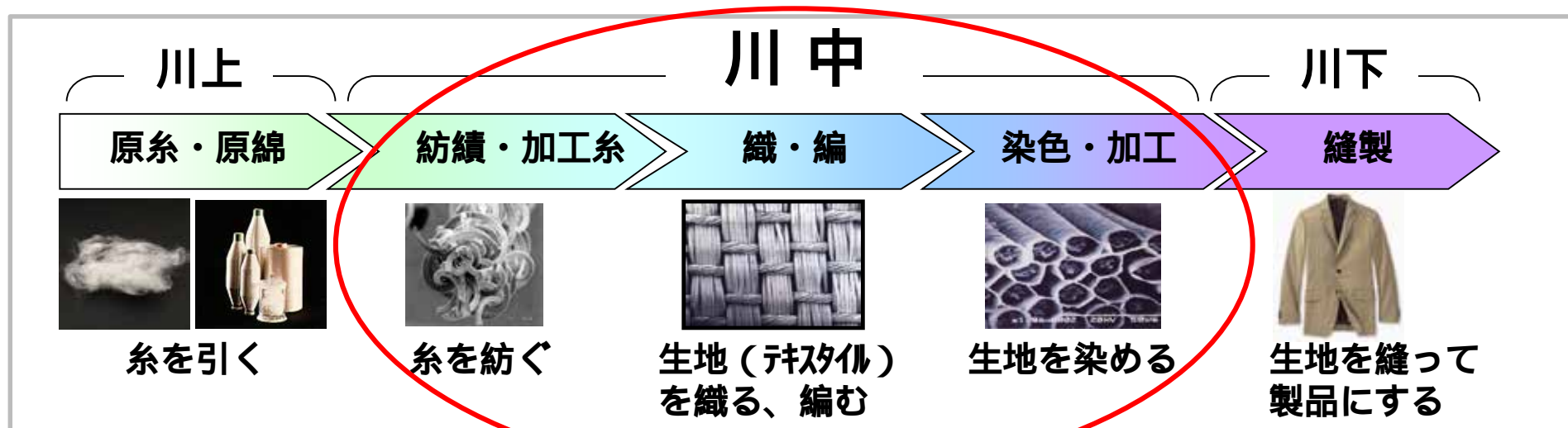
東レ合繊クラスター設立から炭素繊維複合材料加工技術開発まで

2015年8月19日
東レ株式会社
取締役 須賀 康雄

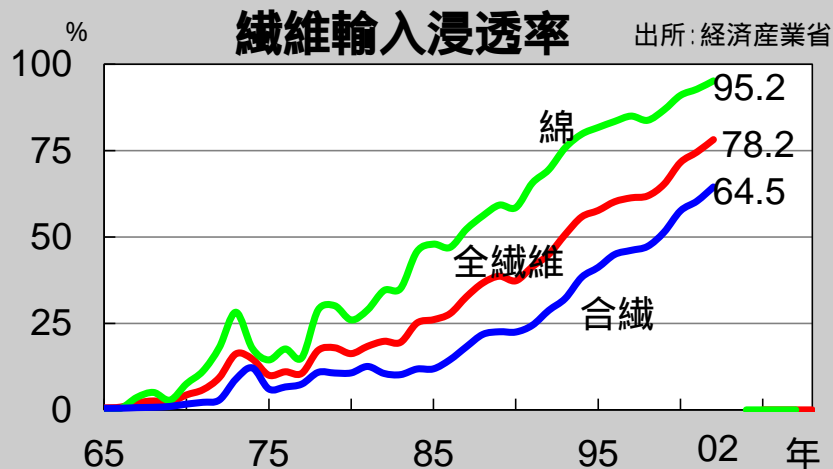
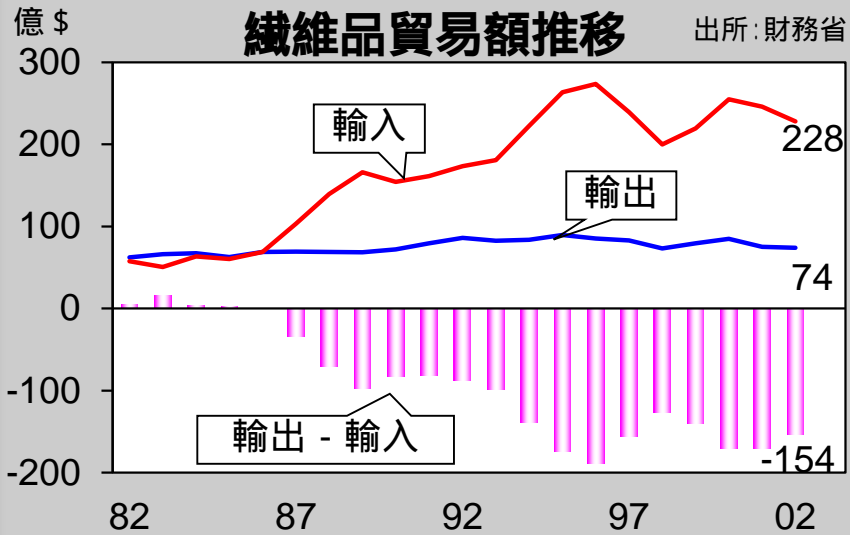
北陸繊維産地とは

- 日本のテキスタイル（織物・ニット生地）に占める合繊シェアは約8割
- 日本のテキスタイル（織物・ニット生地）の約5割は北陸3県で生産

北陸は日本を代表する合繊テキスタイル産地
（世界有数の繊維川中企業集積地）



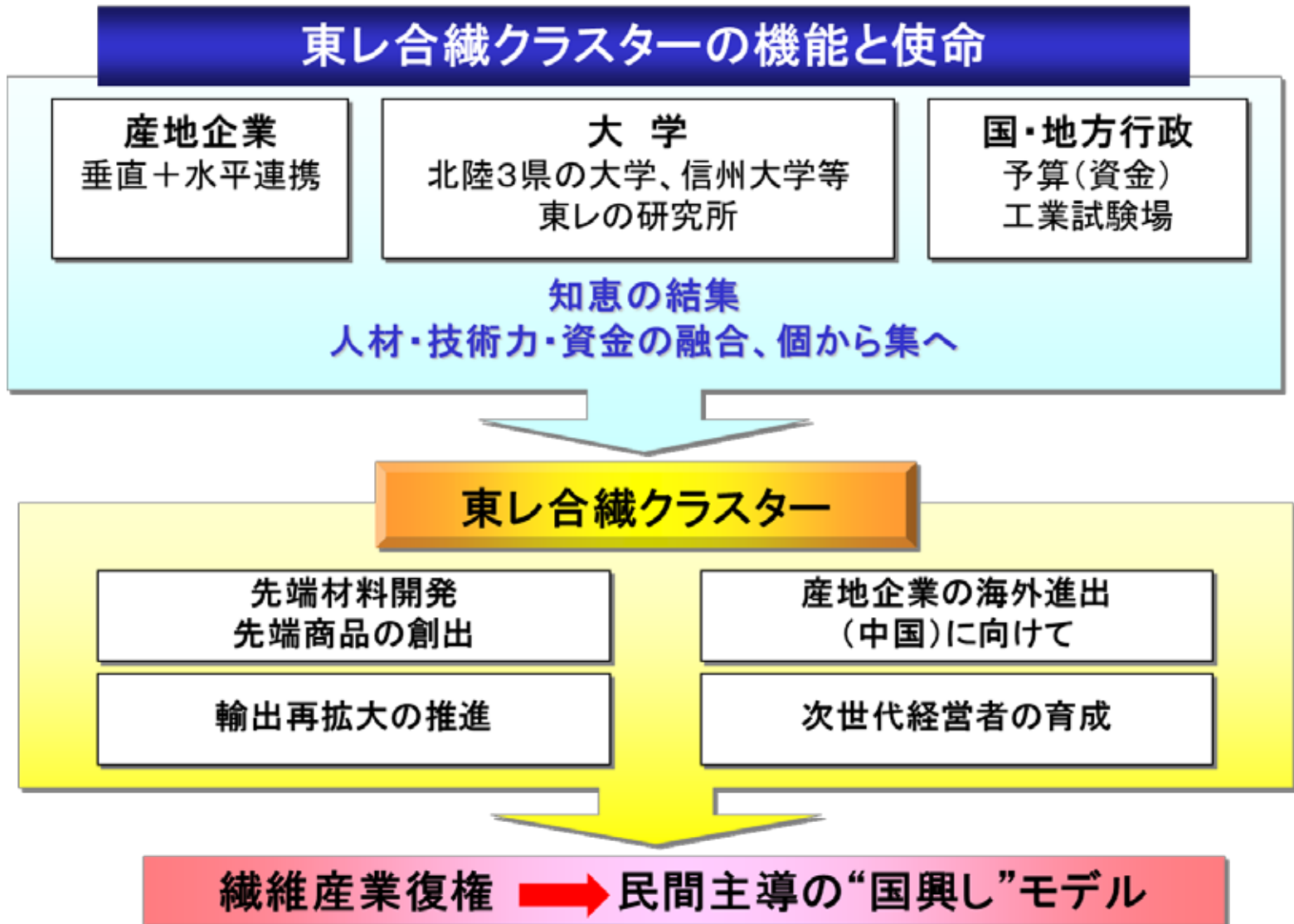
北陸繊維産地の危機（東レ合繊クラスター設立の背景）



川上の国際競争力維持・川下の生き残りのためには 優れた川中（産地企業）の存在が不可欠

1. 企画提案型の企業への脱皮
(受託から自立・自販企業へ、製品から商品へ)
2. 絶えざる「新技術・新商品」の開発
(差別化定番品、小ロット高付加価値商品の開発)
3. 多品種少量生産を可能とする生産システム改革、
極力低い減価償却費の実現を可能とする設備投資の実行
4. 国内ミル消費量維持のためにも、強力な輸出推進
5. 企画力を担う目利き、デザイナー、スタイリスト等
経営資源の補完

東レ合繊クラスター設立の理念 (故 前田東レ名誉会長講演資料より)



東レ合繊クラスター設立（2004年）

従来の「メーカー系列」や「委託」、「自販」という枠組みを越え、
産地の企業と東レの経営力・技術力を結集し、
世界に類のない 原糸 / 高次一貫の連携体制を構築

産地企業



東レ

原糸・高次一貫の知恵と技術の融合

相互の切磋琢磨と有機的連携

東レの役割

企業としての利益追求ではなく、産地の活性化に向けて、
中小企業の自立・自販を全面的にサポート

クラスター活動の運営、技術・販売のアドバイス、知財関係、人材育成、事務局業務 等々

東レ合繊クラスターが目指すビジネスモデル

